

# 開会の挨拶

(財) 集団力学研究所会長

(株) 西日本新聞社取締役相談役

多田 昭重

皆さん、こんにちは。集団力学研究所の会長を仰せつかっております、西日本新聞社の多田でございます。本日はお忙しい中にもかかわらず私どものシンポジウムに多数ご参加をいただきまして誠にありがとうございます。開会に当たり一言ご挨拶を申し上げます。



毎年2月に、このシンポジウムを開催しておりますが、早いもので、今回で28回目を迎えます。また、集団力学研究所は、今年で創立44周年になります。これもひとえに皆さまの長年にわたるご支援、ご協力の賜物と深く感謝しております。

「集団力学」、グループ・ダイナミックスは、集団、組織、コミュニティなどを改善・改革していく実践的な「人間科学」です。特にさまざまな現場に研究者が飛び込み、現場の当事者と共同で研究・実践を展開していくという特徴を持っております。戦後いち早く集団力学を日本に紹介されたのは故三隅二不二氏です。三隅先生は皆様ご存じだと思いますが、有名なリーダーシップPM理論の研究を地元企業との共同によって推進されました。また小集団

活動による事故防止にも西日本鉄道さんをはじめとする地元企業と共同して取り組まれました。このような研究によって三隅先生は1994年に、集団力学の創始者、クルト・レビン教授の名前を冠した、「クルト・レビン賞」を受賞されております。また、2006年には、現在の所長であります杉万先生が、国際応用心理学会の名誉会員賞を受賞されておられます。これらは、集団力学研究所の活動が国際的にも高い評価を得ている証だと自負しております。

本日のシンポジウムは、「新しい集団力学—『かや』の概念」というテーマのもとに、集団力学の新しい哲学でもあります「かや」という概念を取り上げました。「かや」の内そと、という言葉があります。「かや」とは特定の人々とその環境によって醸し出される集団の性質のことです。どんな集団、組織も「かや」に包まれています。私たちは生まれてから死ぬまで数多くの「かや」に包まれながら人生を送っております。私たちは「かや」によって動かされている。これが新しい集団力学の哲学です。

私たちの常識では、まず個人ありき。その次に何人かの個人が集まって「かや」が出来ると考えています。しかし今回のシンポジウムでは敢えてこの常識を再検討するということがテーマです。「かや」が先ではないか、個人よりも「かや」が先ではないか、そんな逆転の発想を楽しんでいただければ幸いです。

今日のシンポジウムでは、テーマにふさわしい素晴らしい方々をお迎えすることができました。まず、基調講演では、情報学がご専門の京都大学名誉教授 片井修先生に、「情報土壌学—分ける情報と包む情報」と題してお話をさせていただきます。情報土壌学は片井先生が初めて提唱された新しい情報学のパラダイムです。これは、集団力学の「かや」の哲学とも密接な関係にある理論です。

次に、第2部のパネルディスカッションでは、「蚊帳の内そと—組織変革の視点」をテーマに、昭和鉄工株式会社顧問の水口敬司さん、福岡県男女共同参画センターあすばる館長の村山由香里さんにご登壇していただきます。私もよく存じ上げておりますが、お二人とも体験されてきた「かや」についての豊かな経験の持ち主です。お二人が体験された「かや」についてそれぞれの切り口で語っていただきます。本日の基調講演とパネルディスカッションが、皆さま方ご自身が住まわれている「かや」について考えていただく機会になりますことを期待しております。

最後になりましたが、本シンポジウムの企画・開催にあたりましては、数多くの方々のご支援をいただきました。特に福岡県、福岡市、北九州市、九州経済連合会、九州経済調査協会、福岡商工会議所、九州生産性本部、福岡県中小企業経営者協会、日本産業訓練協会九州支部、福岡県看護協会にはこの高い席からではございますが、この場をお借りして、心から御礼を申し上げます。本日は大変ありがとうございました。